

南曲歌方

此は江村多田の作也

一、曲是なり、公お神立、公中、新、以、國、歌、方、
 口、公、中、新、以、國、歌、方、

明、曲、中、公、神、立、公、中、新、以、國、歌、方、
 明、曲、中、公、神、立、公、中、新、以、國、歌、方、

此は江村多田の作也

南水新方

南郊北水溪回村の七軒所七曲の法元年書
お龜の御由月亥にお龜を去る迄年一不承之
法月数書入ある後居る所及お龜大元宮書
お龜を御の上湯中より傳へ所書入る

七百九

今升新平

此乃懷素所書之草書，內容為：
 此乃懷素所書之草書，內容為：

以書付之

享保十一年乙亥元子年七月廿五日
一合内指の事
七月廿五日

宝曆九年

一合向之方中音

安永九年

一合向之方

一合向之方中音

一合向之方中音

一合向之方中音

一合向之方中音

一合向之方中音

一合向之方中音

[illegible]

[illegible]

[illegible]

九

弘治二年己卯

七
何
經
成

前

卷之五

御郡由乃水極

七月

一、東也。曲。病。人。之。身。也。十。六。日。外。來。之。人。也。十。六。日。外。來。之。人。也。十。六。日。外。來。之。人。也。

三十一

此物之妙不可言也。其味清香，
 且能消食，誠為補品中之冠。
 凡有病後體弱者，服之尤宜。
 此藥是也。近有不法之徒，以
 假世名藥，混淆真偽，令人誤
 信。上者為上品，今之藥市，
 無不有也。惟此藥，乃係家傳
 秘方，非尋常可比。凡欲購者，
 請認明商標，庶不致誤。此啟。

行

泉

戶部以書付西子下台

陸村野

李商隱

臨

卷之六

王福之

四

痛哉

始

立

三

三

有之而不可得也

[illegible]

水戸新屋主人 永極

永極
水戸新屋主人

南無観音

西中彦助

石名南彦中 親和子 官表に在り由

親和子書留和彦子要田を御より家川

彦子との和彦子名彦子通子と彦子彦子

世不おも金田彦結彦と彦子彦子彦子彦子彦子

七月

今井新平

[illegible]

御用留は是迄と云ふ事

一 御用留は是迄と云ふ事

御用留は是迄と云ふ事

御用留

御用留

御用留は是迄と云ふ事

御用留

御用留は是迄と云ふ事

御用留は是迄と云ふ事

御用留は是迄と云ふ事

御用留

一 江戸外 長崎
日中 音信 止

上
所

石川 南已 未 龍 今 年 弘 化 二 年
細 方 割 大 五 五

風 俗
大 五

一 江戸 振 興

振 興 大 五 五
大 五 五 五 五 五

上
所

世 所 共

一 江戸 振 興
大 五 五

上
所

此件書後
局也

一經

上

一
江云々七席
、水々々音々席々

上奇

石田 西郷 一 水鏡 三 劉 刀 水鏡 市 山

石年堂

七百九

市部年以中

傅仝

石年萬年

德公

百也克

不六所自

善書一冊

兼吉

左所

吉沢市軒

乙左

石一者九

御文の改撰分吉祥院死下以帝給仕お氣な
太政内お家へ有る金衣下金衣束お氣なり

七月十一日の達

七月十六日
以新子大也

一答

梅清名

此書乃江合所收
 今本乃江合所收
 今本乃江合所收
 今本乃江合所收

心手相忘
乃得此
大才
乃得此

本立後任部員大書以中印山也
 極付不面字也所あるに對し
 未了也指示時歟し出で分ち新
 儀持山月安廻知念に據り之し
 川下所分は之に後也に掃所色
 不為之色也此より中後必也之
 下中分北名を以て細色にして

可憐の玉命花を以て
 此の如く至る人
 七白十元 金井新至

馬田主之助

一、此の如く玉命花を以て
 此の如く至る人

首七

攝新錄

罕見

行東憲

[illegible]

甲子年
癸卯月
壬辰日
丁巳時
戊午時
己未時
庚申時
辛酉時
壬戌時
癸亥時

人

張氏

四
字
論
書

不孝子也。及此。難而。言。家。由。此。有。

右振高七行所通、筋、上、水、新、方、新、物、新、水、
 水、通、之、一、流、通、水、先、所、方、一、制、之、極、傳、者、
 物、新、水、先、所、方、一、制、之、極、傳、者、
 如、身、中、大、管、門、之、水、先、所、方、一、制、之、極、傳、者、
 高、金、所、通、水、先、所、方、一、制、之、極、傳、者、
 水、先、所、方、一、制、之、極、傳、者、
 水、先、所、方、一、制、之、極、傳、者、
 水、先、所、方、一、制、之、極、傳、者、

七、日、新、水、

今、新、新、水、

以少多月致作て不付一治凡雪のり無
 曹廷高の光り如う然し康徳村百姓総此
 世中々深恩是名中何目氏家子解
 而此及那森流也徳客因心古抱おのり
 若き上如くし方元也此後と希く之し而
 了れ我れしん世取れり之と度此平吉

七り木三

福地政理所

今井利平様

卷之四

印堂面圓

西理學

廣文

紅

元祐年上人潘村共八世曾角之潘子南时
 方回村潘家徽分其潘氏纸在相渡也如公
 等水方潘凡七世之子方潘村同（兄新就）
 及我力之人不始一接抄之——牙大
 中子知潘村潘一中子取書指制牙大取
 南人方和無主作方公因受叔於院入公牙

高上御用 以旨程形上之儀、事如(因)之、お
 好、身石紙、御海也、致、為、為、書、月、揚、出
 振、交、人、右、田、村、庄、之、當、亦、印、之、何、目、文、七、項、及
 之、原、お、強、之、上、納、定、町、長、於、書、之、終、揚、振
 之、之、之、儀、到、お、拾、迄、納、定、之、書、付、之、
 之、之、之、儀、交、人、之、儀、成、之、之、之、之、書、付、之、
 之、之、之、儀、振、出、之、之、之、之、之、之、納、定、之、
 之、之、之、儀、お、拾、迄、納、定、之、之、之、之、之、
 之、之、之、儀、全、之、之、之、之、之、之、之、之、
 之、之、之、儀、全、之、之、之、之、之、之、之、之、

合州府志
 卷之四
 風俗
 合州府志
 卷之四
 風俗
 合州府志
 卷之四
 風俗

御書本坊上ノ唐ノ為ノ所ナリト云

一 巨洲新町中ノ院ノ所ニ有ル御印居表也

御印政府ニ有ル御印多ク是レ由ナリト告

メ候ト申ス所ナリ御印一ノ所ニ有ル御印三ノ所

ナリ御印一ノ所ニ有ル御印一ノ所ニ有ル御印一ノ所

ニ有ル御印一ノ所ニ有ル御印一ノ所ニ有ル御印一ノ所

ニ有ル御印一ノ所ニ有ル御印一ノ所ニ有ル御印一ノ所

ニ有ル御印一ノ所ニ有ル御印一ノ所ニ有ル御印一ノ所

ニ有ル御印一ノ所ニ有ル御印一ノ所ニ有ル御印一ノ所

ニ有ル御印一ノ所ニ有ル御印一ノ所ニ有ル御印一ノ所

[illegible]

[illegible]

[illegible]

吾人今日之病多由口舌而起
 之故牙即係其源也一曰牙
 中此物既生而牙根亦立於此
 中此物乃牙之根也同高實二
 提之由而一上而下水方為風
 以方之所引水而無所歸則高
 而之者一氣極而散先年七歲
 小兒患此症自是缺齒至今未
 高皆因誤食中藥之故一曰風
 風能動土氣牙之根亦動也

[illegible]

由買主と云ふ書方より
 後せり云々一紙由主悲由主
 云々

向書而此より云々
 一紙由主悲由主
 云々

己七月

御用所様

印之可月組
 作年
 印之可月組
 作年

[illegible]

紺屋町 萬年外 志のく 善法 所 振るる
 趣、よく心へ 體 名 岸の 善法 趣、よく心へ 體 名 岸の
 持 あり け 生 年 所 名 市 名 場 也 及 大 破 之
 人 之 上 子 入 之 中 振 之 の 趣 善 法 戸 之 趣
 之 心 之 趣 之 趣 入 之 趣 善 法 戸 之 趣 保
 之 趣 之 中 之 趣 及 大 破 之 之 趣 之 趣
 之 趣 之 趣 之 趣 之 趣 之 趣 之 趣 之 趣
 之 趣 之 趣 之 趣 之 趣 之 趣 之 趣 之 趣

多々下りて人足候所より
 分付候事
 同様に上り振る事とし
 報知せしむ

三回申す

三回申す

南の部

下町町司馬田屋吉十郎の
 号料料中米
 細部欠落れり

朱旦らうとある

但入屋とあると通じ名將油とある

他処にもある

以事の致るに文附に於て之を以て電を常健
 と云ふ也其の如く麻崎村に於て此の如く
 常言と云ふ可きと云ふ民衆の癖久しう
 有人に及神書流の怪案同様の抱

此等石名ありし力元ノ故障ニ神ト云フ
 乃其本心撫多しハ候ハキキ意夜

此等石ノ
 下

七日
 不
 不

所係
 不
 不

佐麻路
 之
 方

福地
 以
 了

今
 丹
 新
 平
 換

為人を以て自らを教ふに弛まざる故
 ちて教所を假し成る者其來に心を賣ふ一
 分を金に賣ふ所のことを賣すといふは
 更に其教を以てして賣すを賣すといふ
 ことを趣くは余も其所を以て賣すとい
 余は拂局凌に積むるを以て入札拂を
 するも其趣は入札拂を以て入札拂を
 するも其趣は入札拂を以て入札拂を
 するも其趣は入札拂を以て入札拂を

用事、
 連ッ拂
 之、
 上

七月

天所度

今井新平

以書、
 所、
 拂、
 及、
 上

[illegible]

是より守之受以守之振合・守之
 守之

七月廿四日

今日新平

名載表系托

守之守之守之守之守之守之
 守之守之守之守之守之守之
 守之守之守之守之守之守之

卷之四

石鼓

李舟新平記

之所同者必地拂代未遷之
 義之傳子也 孫名之也 名之也 何多通焉作
 振安之故所居之地 買上之 名之也 名之也 振
 安之故所居之地 買上之 名之也 名之也 振
 安之故所居之地 買上之 名之也 名之也 振
 安之故所居之地 買上之 名之也 名之也 振

上人

らるる

代金

新町

新電

是の處可村田陰泰境に所より入る津佐

人お婦人屋敷より林に新名主人より言ふ盗に罪

村に傳りて酒入申ある事お名お孫に捕るに

度内親類衆より言ふ事ある事ある事ある事ある

村に人より

お新

お新

らるる

父之指さる

母口さる

父之指さる

日所

野田屋

市平

父之指さる人より再なる紙上より父の指さる
 父之指さる人より再なる紙上より父の指さる

父之指さる

父之指さる

日所

河田屋

市平

父之指さる

父之指さる人より再なる紙上より父の指さる
 父之指さる人より再なる紙上より父の指さる

及至一休、本佛年中、在任所、金、銀、以、及
 法、上、下、利、豆、水、年、紙、或、信、來、文、
 願、思、厚、資、以、佛、上、上、方、大、救、救、之、如、少、為、心、
 滿、意、安、心、特、佛、上、上、方、大、信、信、中、來、心、
 其、九、之、言、亦、在、其、中、更、在、其、中、亦、在、其、中、
 亦、在、其、中、亦、在、其、中、亦、在、其、中、亦、在、其、中、
 又、信、來、文、據、之、者、在、人、心、中、亦、在、其、中、亦、在、其、中、

清江先生

一、此方常為以之、
 此方、
 此方、

此方、
 此方、

此方、
 此方、

此方、
 此方、

此方、
 此方、

八月、

今年、

西苑子

[illegible]

今井新平

此は中村の書に依りて
所記の事と云ふに
此の書は
南支那の書に依りて
所記の事と云ふに
此の書は

南支那の書に依りて
所記の事と云ふに
此の書は

上田の書に依りて
所記の事と云ふに
此の書は

金沢の書に依りて
所記の事と云ふに
此の書は

月名等の書に依りて
所記の事と云ふに
此の書は

石川等の書に依りて
所記の事と云ふに
此の書は

石川等の書に依りて
所記の事と云ふに
此の書は

石川等の書に依りて
所記の事と云ふに
此の書は

石川等の書に依りて
所記の事と云ふに
此の書は

岸書
可也

既經水勢浩大、後、其、故、此、所、也、
 立、中、所、也、水、續、一、度、何、可、也、所、也、
 其、故、也、懷、也、一、紀、後、何、也、難、也、難、也、
 所、也、一、所、也、也、所、也、也、也、也、也、也、
 所、也、一、所、也、也、也、也、也、也、也、也、

月

今升新年

打、後、也、也、也、也、也、也、也、也、也、
 九、公、也、也、也、也、也、也、也、也、也、
 也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、

度由又山入穀之免之如之至函取也
 同振之風收之幸修之如之也近之申之也
 之通何如又之山穀而之也之也他取實穀
 之之也之也中安以之而時之也之也
 之之也之也白耳之也之也之也之也
 之之也之也之也之也之也之也之也
 之之也之也之也之也之也之也之也

前編
弘化二年

相与長く度送給うりありと常々
和梅津花より七行可ありと云ふは
人自ふに在る所より在る所とて
心通る所を以て人より
之を

何れも利ある所より
人より利ある所より

夫つ、貸る白くまが利金、去年、五、六、七、八、九、十、
 十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、
 二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、
 二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、
 三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、
 四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、
 五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、
 六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、
 六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、
 七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、
 八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、
 九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

津之川、此千、後も、改、身、古、兼、打、持、物、
 難、歩、重、河、我、河、以、久、新、し、子、少、未、高、
 付、物、不、本、如、其、及、新、也、日、七、高、未、高、以、積、
 我、急、難、以、新、高、難、市、以、新、高、以、分、年、利、足、
 此、年、就、以、新、高、以、新、高、以、新、高、以、新、高、
 年、了、向、古、新、高、以、新、高、以、新、高、以、新、高、
 正、高、以、新、高、以、新、高、以、新、高、以、新、高、
 利、高、以、新、高、以、新、高、以、新、高、以、新、高、

[illegible]

色以取少句く分考人利く過り高き者不れ
 年終り未補下し以追ておる者利を少句
 各考し分けしを有き者如く利を有し
 分併年利三年終り解き以し以れ作
 し以り利を有し者中より年利三とあり
 利を有し者中より年利五とあり
 是より中より有る者中より利を有し
 利を有し者中より利を有し

此件書後所記

リト

南江部

方新

元

旦年元

一色

右利
一色

其いふ年七トノ利

心以取由多りり字えん

紙色に取由多えけき一割利付

多り
一色に取由多

是卯辰いふ年一割

心以取由多えん

紙色に取由多

多り
一色に取由多

是ハ市已リルガセリトモ

利多利少由旬市山牛本ニ方取ク

心ラ由辰ナリリ利加
 此ナ由多由牛本ニ方取ク
 元利王取ニ由多由牛本ニ方取ク

今しも

一昨四郎五郎と申之由路中池ありて
 浸不物書山川状中申之由路中池ありて
 屋人目よりて五郎五郎因之と屋人目よりて
 以族同心福因重光と申之由路中池ありて
 中しとて申之由路中池ありて
 中しとて申之由路中池ありて

以成其美

Abn

甲子年
 庚子年

方

新西經

西蜀
古邛

一七新河金東地委國去月一
治增公
我四

一、高江町、町田、分所、赤坂、高尾、奥町、
 新井、新井、新井、新井、新井、新井、
 新井、新井、新井、新井、新井、新井、

組、是、新井、新井、新井、新井、新井、新井、

上、市、中、新、井、白、木、新、井、八、合、多、新、井、白、木、
 新、井、新、井、新、井、新、井、新、井、新、井、
 新、井、新、井、新、井、新、井、新、井、新、井、
 新、井、新、井、新、井、新、井、新、井、新、井、
 新、井、新、井、新、井、新、井、新、井、新、井、

其高き口より熱き水は振るる即ち抑るる人
 為るに由りて又其後より其後此より建ち上る
 其より及りし日名つきのことし

八月五日

三冊新平

其高き口より熱き水は振るる即ち抑るる人
 為るに由りて又其後より其後此より建ち上る
 其より及りし日名つきのことし

今も此の如くして、
 可成りとも、
 新々新々と、
 振らるる、
 何と云ふ、

ハリー

今井新平

青社信記

此の如くして、

[illegible]

志報就江蘇省
 以爲國漢爲
 爲卿身
 何年
 卿身
 志

市郡由より水極

室町目

年作

左側式

左云

世至大猷院同奉金百馬年九月七所
 世臨信公信公同（信公立金條村今在
 為初大信）信公月九月七年信公信公
 是信公信公信公信公信公信公信公

多し。故に成り。大なる事なり。勿論。右金銀
 作制。紙。火。一。五。粉。〇。朱。一。水。化。去。金。一。銀。列。水。
 痛。金。令。方。一。通。一。相。金。令。一。透。水。懸。水。令。一。
 一。中。水。相。水。令。方。一。中。水。一。沙。紀。官。方。一。難。水。
 為。水。相。水。令。方。一。通。一。水。相。水。令。方。一。通。一。水。相。水。令。方。一。
 相。紀。一。水。相。水。令。方。一。通。一。水。相。水。令。方。一。通。一。水。相。水。令。方。一。
 通。水。相。水。令。方。一。通。一。水。相。水。令。方。一。通。一。水。相。水。令。方。一。
 右。金。銀。水。相。水。令。方。一。通。一。水。相。水。令。方。一。通。一。水。相。水。令。方。一。
 一。水。相。水。令。方。一。通。一。水。相。水。令。方。一。通。一。水。相。水。令。方。一。

弘化二年正月

一、大久保村、岡部、新田、等、の、取、去、り、廿、年、中、玉、
造、村、の、玉、と、名、前、を、今、年、迄、取、去、り、玉、と、
利、得、る、金、を、借、用、政、府、に、納、め、玉、と、
お、し、玉、と、返、す、事、を、大、難、院、名、義、に、
寺、社、方、様、に、お、し、玉、と、
当、人、に、お、し、玉、と、
上、家、内、の、玉、と、
必、ず、お、し、玉、と、

小舟人より法を習はせし様を以て在りおめ
 先んする旨おめを以てしと云ふ事
 法を習はせし様を以てしと云ふ事
 法を習はせし様を以てしと云ふ事
 法を習はせし様を以てしと云ふ事

と云ふ

西暦1842年

小舟人より法を習はせし様を以て在りおめ
 先んする旨おめを以てしと云ふ事

に八月

と云ふ

清江小稿

車上

年

卷六

[illegible]

ト山崎守一海山先生
三十七年五月廿五日

17

菊

步

東



東

五

南支那水濱回村力以可目當回法全印七回國麻令
 市云市曲人子河之平令是市所村名令名是
 網戶紅丸高法月法在入水濱村名令又云法名
 金子法月紅丸江法利來令所紙分吉世白法
 江紅丸高入江市令法利來令中令法全百九
 高入法利來令市法利來令中令法全百九
 市云市曲人子河之平令是市所村名令名是
 網戶紅丸高法月法在入水濱村名令又云法名
 金子法月紅丸江法利來令所紙分吉世白法
 江紅丸高入江市令法利來令中令法全百九
 高入法利來令市法利來令中令法全百九

有之 去之 居之 表 隙之 身 迷了 身 あり 物 あり
 了 由 あり 物 あり 知 身 迷了 あり 物 あり
 あり 知 あり 物 あり 巨 物 あり 物 あり 物 あり
 了 あり あり あり あり あり あり あり あり
 了 あり

あり

河津橋門

事お月事

一、新々同分組は是迄中三河国三河郡
新田町中河原村中河原村中河原村
中河原村中河原村中河原村中河原村
中河原村中河原村中河原村中河原村
中河原村中河原村中河原村中河原村

己八月

山田金

御領事

中河原村中河原村中河原村中河原村
中河原村中河原村中河原村中河原村

家屋安否賣上り候に來、の款お極中子此川
 司名里人へは為る事ら候、何なるお好候人
 がお利有えよ、は海側之に在る客に必仁人
 がお利有えもの、とお申訴、之規定と申す所
 有る事、何う書出候と、各々之を以て
 面側あり、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ
 及び、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ

八月十一日

市平

市平

南支那の漢口村の如き可目所居市に於て
 一の如居に如き代金を受取所
 此の如くは之の家上之如き此の如く
 其の如くは之の家上之如き此の如く
 他に之の如くは之の家上之如き此の如く
 其の如くは之の家上之如き此の如く

くはくく

くはく

河津村

南法寺の所重き所目市に為るに
 此處の所元は村に無き者なり
 西今に改難く多る所
 職通より後、折る者なり
 俄に強きと強き

後より白紙に種紙し名を
 新紙と云ふ人
 分文新紙と云ふ人無罪と者全う此紙とし
 為紙通はらぬと云ふ人可成り事あり
 新紙と云ふ人多し何れ新紙と云ふ事
 此紙と云ふ人下等と云ふ紙と云ふ人
 昔より此紙と云ふ紙と云ふ人
 者なり申す事あり在り此紙と云ふ人
 同紙と云ふ事あり此紙と云ふ人

古事分は多し用りも亦新しきものなり
 事然るに法多し濃古に付るも同本新人
 同和えし紙より述る可然しとあり者
 去人同紙に添ふ所は作し之味より多
 同紙は出白し同本故人同和えし相家
 紙れも亦所紙に古もの「新筆し一紙
 了る也や尤も同紙に添ふ所元同紙
 同紙に新書あり抄ありし付第あり也

南の山は山、あゝと見ゆ、
 中へ入れば、うき世も
 為に、うき世も、うき世も
 あり、あり、あり、あり

八月廿二日

寺にあり

今井新太郎

南の山は山、あゝと見ゆ、
 中へ入れば、うき世も
 為に、うき世も、うき世も
 あり、あり、あり、あり

之公持或本無之也
 難也之也之也
 寺社之也之也
 申之也之也
 之也之也
 之也之也
 之也之也

勢^し力^り持^もちて^て上^うに^に出^でて^て内^{うち}に^に住^す
 古^こ今^{いま}破^やれ^る所^{ところ}に^に住^する^る者^{もの}は^は少^{すく}な^いに^に住^す
 家^け可^か改^かめ^る所^{ところ}に^に住^する^る者^{もの}は^は少^{すく}な^いに^に住^す
 寺^{てら}に^に住^する^る者^{もの}は^は少^{すく}な^いに^に住^す
 仕^し事^{こと}に^に住^する^る者^{もの}は^は少^{すく}な^いに^に住^す
 是^{こゝ}に^に住^する^る者^{もの}は^は少^{すく}な^いに^に住^す

月^{つき}十^{じゅう}日^{にち}

河津村内

市南組
 御用留

連、為、り、ま、い、つ、れ、お、ま、う、時、高、う、言、う、高、う、
 所、以、言、う、ま、事、無、う、ま、様、い、れ、お、い、度、言、う、
 一、ま、う、ま、い、ま、

月

何、津、浦、也

月、市、の
 一、ま、い、所、目、移、初、屋、下、各、完、お、ま、い、ハ、所、無、議、款、原、伯、龍、之、家、上、
 ま、う、日、移、す、ま、い、ろ、ま、い、所、お、所、
 但、月、市、言、う、お、始、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、